

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成23年7月16日	評価結果市町村受理日	平成23年9月9日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600087&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔の絶えないホームです。
家、家族という部分を大切に、喜びや悲しみを共有できる関係づくりを目指しています。入居者様も楽しく暮らせて、
も楽しく働けるホームづくりの為に日々努力しています。また、医療機関や訪問看護ステーションとの連携の基に入居
安心して過ごせるようにと考えています。看取り介護にも積極的に取り組んでいます。今後も、ご家族様や地域の方
関係を築き、皆様から愛されるホーム作りを目指していきたく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほほえみ」は、近隣に遊歩道のある緑豊かな住宅地に位置している。広々とした居間には多くの
窓から爽やかな風が流れ込んでおり、採光も十分である。使いやすいオープンな造りの台所に、廊下、洗面所、トイレ
が広く、車椅子対応になっており、エレベーターも設置されているなど設備が整っている。外部評価の取り組みに
積極的で、前年度の取り組み事項の殆どが達成されている。市との協力関係ができており、何か困ったことや分から
ないことがあればその都度市の担当者に相談し、運営推進会議には市の担当者や地域包括支援センターの職員
に毎回参加してもらっている。また、市の制度を活用して職員を採用するなど市との連携は良好である。利用者が
これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を大切にしており、利用者の知人や元勤務先の方が訪ねて
来た際はお茶を出してもてなし、居室や居間で時にはスタッフも交えて会話を楽しんでいる。編み物の好きな利用
者を行き付けの毛糸屋に車で連れて行ったり、家族の同行が困難な利用者の法事や葬儀に職員が同行するなど
個別の対応を行っている。職員間のコミュニケーションが良好で職員同士仲が良く定着率が高い。職員の利用者
に対する態度や言葉遣いは丁寧で優しく、利用者はゆったりと穏やかな生活を楽しんでいる。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていること をよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が 訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつな がりが増えたり深まり、事業所の理解者や応援者が増え ている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみ られている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせてい る (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足 していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援によ り、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目標とし、ほほえみ独自の理念作りに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念が玄関と各ユニットに掲示されており、ミーティングなどを通じて全員で確認されている。現在、事業所独自のケア理念について職員全員から意見を収集し検討しているところである。	事業所独自のケア理念の確立を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園との交流、お祭りへの参加等を通して交流に努めている。	町内会に入会し町内会のお祭りに参加している。近隣の幼稚園の運動会を見学したり、幼稚園の畑で採れた野菜をもらうなどの交流がある。また、散歩中に近所の方から漬物や野菜をもらうこともある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会館に、外部評価の結果や通信を置いてもらいホームを周知してもらえる様取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、情報交換や意見交換をし、参加者から出た意見は、スタッフミーティングで話し合い、サービスに活かしている。	運営推進会議には、市の担当者や地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員、家族代表が参加し、状況報告、防災、外部評価などについて意見交換しているが、家族の意見は少ない。議事録は家族宛には送っていない。	家族が運営推進会議に関心を持ってもらえるように、会議の議事録を家族宛に送付することを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換しながら、問題等が出た時は相談をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	何か困ったことや分からないことがあれば市の担当者に相談しているほか、運営推進会議には市の担当者や地域包括支援センターの職員に毎回参加してもらっている。また、職員採用の際は市の制度を活用している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、ミーティングで話し合ったり、研修に参加するなどスタッフ全員が理解する様取り組んでいる。	毎年、各ユニットから1名ずつ身体拘束に関する外部研修に参加している。内容はミーティングで報告し資料は回覧している。玄関はセンサーを設置し、日中は施錠していない。現在は、玄関に面した窓から利用者の出入りを確認することでセンサーはあえて使用しないようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ミーティングで話し合いの場を設けスタッフ間の情報を共有し、見逃し等がない様防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様に理解、納得していただける様、十分な説明や話し合いを行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を言いやすい様に入居者様や、ご家族様とのコミュニケーションを大事にしている。苦情箱を設置している。また、退去時にアンケートをお願いし運営に反映させていく。	毎月1度生活の様子と、3ヶ月ごとに1度「ほほえみ通信」を家族宛に発送している。家族の訪問の際は積極的に話しかけて意見を聞き、介護記録や連絡ノートで全職員が共有し、運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの他に必要と判断した時は、スタッフの意見・提案を聞き実行可能なものは随時進めている。また、年に1度個人面談を行っている。	毎月のミーティングはユニット合同で行い、全体の意見交換を行った後各ユニットに分かれモニタリングを中心に話し合いをしている。勤務体制も職員の希望を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々がスキルアップできる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。また、個々の努力・実績勤務状況を把握し職場環境、待遇改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修に積極的に参加する様進めている。その為の時間や研修費にも配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の研修会に積極的に参加したり、それ以外にも集まりの場を設けるなどして情報交換、交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、不安などに耳を傾け個々のニーズを把握し、安心していただける様な関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安などに耳を傾け情報交換をしながら、不安の解消、要望に近づける様関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様と相談をしながら必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、コミュニケーションを大事にし、喜びや悲しみを共有しあえる関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換により、大きな協力を得て共に支えていける関係が築かれている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人からの電話の取次ぎや、気軽に来所していただける様な雰囲気づくりに努めている。	利用者の知人や元勤務先の同僚が訪ねて来た際にはお茶を出してもてなし、居室や居間で時にはスタッフも交えて会話を楽しんでいる。編み物の好きな利用者を行き付けの毛糸屋に車で連れて行くなど個別に対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格を把握した上で、入居者様同士の関係を見極めながら見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当ケースはないが、今後必要があれば相談、支援をしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、個々の希望・意向の把握に努めている。また、アセスメントシートを活用しながら、情報を共有し検討している。	アセスメントシートは毎年更新し、情報を追加、蓄積している。利用者が発信するサインなどを見逃さず介護記録に記載し、職員同士や家族とも共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネからの情報や本人・ご家族様からの情報をアセスメントシートを使い、スタッフ全員が共有し把握する様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を利用し、健康チェックを通して生活のリズムや心身の状態、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の意見、要望を来所時や電話等で聞き介護計画に反映させている。モニタリングを1ヶ月ごとに行い現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングとカンファレンスを通じて、利用者・家族と職員の意見を反映させた介護計画を作り上げている。介護計画は3ヶ月ごとに見直し、状況が変化した際はその都度見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや介護記録を活用し、スタッフ間での情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に合わせ話し合いの場をもちながら、対応可能なことについてはその都度支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への参加を地域資源と考え、お祭りへの参加、近隣幼稚園との交流、近隣での買い物等を通して暮らしを楽しんでいただける様支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を大切に医療機関への受診の支援を行っている。医師による月1～2回の往診や緊急時の24時間連絡可能体制により、適切な医療を受けられるように支援している。	約3分の1の利用者が従来のかかりつけ医を受診しており、職員が車で通院支援している。歯科医の訪問診療があり、希望者は受診できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを通して情報の共有に努めている。また、24時間対応可能であり、入居様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。早期退院に向けての病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護と判断した場合は、ご家族様と十分に話し合い、医療機関や訪問看護師と連携し方針を共有しながらスタッフ全員で取り組んでいる。	急病や重度化、看取りに対応する事業所の指針があり、利用開始時に利用者・家族に説明している。利用開始後に重度化した場合は再度指針を説明し同意書を交わしている。現在までに4件の看取り介護を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、スタッフ全員が把握する様努めている。2年に1度救命講習を受講し実践力が身につくよう努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して、避難方法の確認をしている。防災グッズを常備し、災害に備える。	年2回、昼・夜を想定した避難訓練を行っているが、訓練時の地域との協力はまだ得られていない。職員の救急救命訓練を実施している。災害時の備品などは現在防災担当職員が準備中である。	地域と協力して避難訓練を行うために、運営推進会議を中心に引き続き協力を呼びかけていくことを期待したい。また、災害時の備品などの準備を期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけのタイミング、声の大きさ、状況に注意を払い、個々に合わせた言葉かけや対応をしている。	家族のように接しながらも丁寧な対応を心掛けている。名前の呼び方も基本的には「さん」付けとしている。個人ファイルなどは他者から見えないように保管場所に布で目隠しするなど個人情報に注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大事にし、本人の希望を上手く引き出せるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、出来る限り本人の希望に添った1日を過ごせる様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問理容を利用し身だしなみに気を付けている。また、衣服等も自分で選んでもらい、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の負担にならない様に配慮しながら、調理の手伝い、後片付けをスタッフと共にやっている。献立を希望に応じて変更している。	献立は食材委託業者が作成しているが、利用者の意見で調理方を変更することもある。誕生日には好みの食事を提供したり、庭でバーベキューを楽しむ、年に数回は弁当を取り寄せている。職員は話題を引き出し、利用者とは話をしながら食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し少ない時は声かけし、本人が好む物を摂取できる様支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、訪問歯科の口腔ケアの利用やアドバイス等により、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に考え、本人の意思を尊重し習慣を把握しながら、一人一人に必要な支援を行っている。	排泄チェックシートに記録し、個人のパターンに沿って排泄支援を行っている。トイレへの声かけにはジェスチャーを交えて耳元で本人の意思を確認し、羞恥心に配慮しながら誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、状況に合わせて腹部マッサージを行ったり、繊維質の摂取や水分量にも注意している。また、内服による排便コントロールをする場合もある。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先しながら、入浴を楽しんでいただける様支援している。	入浴はいつでも入れる態勢になっており、時間や湯加減を聞きながら個人の希望に沿って週2～3回の入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には最低週1回位は入れるように入浴剤の使用や会話の工夫で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、無理に寝る様な声掛けはしない。本人の意思にまかせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の状態を把握し、薬の目的や用法・用量を理解し服薬支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や力を活かした役割を持っていたりしている。嗜好品についても、それぞれの好みに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や買い物等は、希望された時や天気を見ながら随時行っている。年に数回ではあるが、近隣の公園や道の駅など車で的外出も行っている。</p>	<p>天候の良い時期には車椅子使用の利用者も一緒に毎日でも散歩している。年間の外出行事は特に決めないで、地域の神社祭りや公園で花見を楽しんでいる。個別の希望に応じて買い物などに同行している。冬季には大型ショッピングセンターや通院などで月1回以上外出している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭トラブルの防止も考え、ご家族様と相談しホームでお預かりしているが、買い物などでは本人の希望に添ってお金が使えよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族様より制限されている場合を除き、手紙や電話は、本人の希望に合わせて支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様やスタッフが作成した作品や、季節の花を飾るなどして、季節感を採り入れながら工夫をしている。</p>	<p>居間は広々として窓が多く風通しが良い。観葉植物が置かれ、食卓テーブルの生花が季節感を感じさせる。共用空間や廊下幅、洗面所、トイレなども広くて車椅子対応になっている。利用者が過去に作成した絵画や行事の写真などが飾られ、落ち着いた雰囲気である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きな音楽やテレビを鑑賞したり、新聞を見たりできる様な環境づくりをしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内の家具等は、使い慣れた物を持ってきていただいている。危険を伴う物をご家族様と相談の上で決めている。</p>	<p>各居室入口に好みの暖簾を掛け、表札に名前や顔写真を入れるなど自室が分かるように工夫がなされている。居室には使い慣れた家具やベッド、布団を持ち込み、観葉植物を育てたり趣味の作品や家族の写真を飾ることで、その人らしい居室作りを工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の出来ること、出来ないことを見極め安全に生活できる様支援している。また、手すりの設置や居室トイレ等に目印をつけるなどで、自立した生活が送れる様に工夫している。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成23年7月16日	評価結果市町村受理日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600087&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年7月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目標とし、ほほえみ独自の理念作りに取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園との交流、お祭りへの参加を通して交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会館に、外部評価の結果や通信を置いてもらいホームを周知してもらえる様取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、情報交換や意見交換をし、参加者から出た意見はスタッフミーティングで話し合い、サービスに活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換をしながら、問題が出た時は相談するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、ミーティングで話し合ったり、研修に参加するなどスタッフ全員が理解する様取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ミーティングで話し合いの場を設けスタッフ間の情報を共有し、見逃し等がないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様に理解、納得していただける様、十分な説明や話し合いを行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を言いやすい様に入居者様やご家族様とのコミュニケーションを大事にしている。苦情箱の設置をしている。また、退去時にアンケートをお願いし運営に反映させていく。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの他に必要と判断した時は、スタッフの意見・提案を聞き実行可能なことは随時進めている。また、年に1度個人面談を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々がスキルアップできる様、資格習得の為に休暇や手当等の制度を設けている。また、個々の努力・実績、勤務状況を把握し職場環境、待遇改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修に積極的に参加する様進めている。その為の時間や研修費にも配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の研修会に積極的に参加したり、それ以外にも集まりの場を設けるなどして情報交換、交流にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、不安などに耳を傾け個々のニーズを把握し、安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安などに耳を傾け情報交換をしながら、不安の解消、要望に近づける様関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様と相談しながら、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、コミュニケーションを大事し、共に生活をしているという気持ちを持ちながら、喜びや悲しみを共有しあえる関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換により、大きな協力を得て共に支えていける関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人からの電話の取次ぎや、気軽に来所していただける様な雰囲気作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格を把握した上で、入居者様同士の関係を見極めながら、見守りを行っている。時には、スタッフが間に入り関わり合いを支える支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当ケースはないが、必要があれば相談、支援をしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、個々の希望、意向の把握に努めている。スタッフ間で情報を共有しながら、検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からの情報を基に、フェースシートを活用しながら、情報を共有し把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を利用し、健康チェックを通して生活のリズムや心身の状態、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の意見、要望を来所時や電話等で聞き介護計画に反映させている。モニタリングを毎月行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや介護記録を活用し、ミーティングを行い、介護記録の見直しを行っている。また、常にスタッフ間で報告、連絡、相談をし話し合う機会をもっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に合わせ話し合いの場をもちながら、対応可能なことについては、その都度柔軟な支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への参加を地域資源と考え、お祭りへの参加、近隣幼稚園との交流、近隣での買い物等を通して暮らしを楽しんでいただける様支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を大切に医療機関への受診の支援を行っている。医師による、月1~2回往診や緊急時の24時間連絡可能体制により、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを通して情報の共有に努めている。また、24時間対応可能であり、入居様様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様様が入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。早期退院に向けての病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護と判断された場合は、ご家族様と十分話し合い、医療機関や訪問看護師と連携し方針を共有しながらスタッフ全員で取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、スタッフ全員が把握する様に努めている。2年に1度救命講習を受講し、実践力が身につくように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して、避難方法の確認をしている。防災グッズを常備し、災害に備える。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけのタイミング、声の大きさ、状況に注意しながら、個々に合わせた言葉かけや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大事にし、本人の希望を上手く引き出せるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、出来る限り本人の希望に添った1日を過ごせるよう支援している。どうしても希望に添えない場合は、説明をしご了解をいただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、または本人からの希望に合わせ、訪問理容等を利用し身だしなみに気をつけている。また、衣服等も自分で選んでもらい、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の負担にならない様に配慮しながら、調理の手伝いや、後片付けをスタッフと共に行っている。献立を希望に応じて変更している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し少ない時は声かけし、本人が好む物を摂取できる様支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、訪問歯科の口腔ケアの利用やアドバイス等により、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に考え、本人の意思を尊重し、習慣を把握しながら、一人一人に必要な支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、状況に合わせて腹部マッサージを行ったり、繊維質の摂取や水分量のチェックなどを行っている。また、内服による排便コントロールをする場合もある。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望を優先しながら、入浴を楽しんでもいただける様支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、無理に寝る様な声かけはしない。ホールで過ごしたり、居室で過ごしたり本人の意思に任せている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の状態を把握し、薬の目的や用法・用量を理解し服薬の支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や力を活かした役割を持っていただいている。嗜好品についても、それぞれの好みに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や買い物等は、希望された時や天気を見ながら随時行っている。年に数回ではあるが、近隣の公園や道の駅など車での外出も行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭トラブル防止も考え、ご家族様と相談しホームでお預かりしているが、買い物などでは本人の希望に添ってお金が見えるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族様より制限されている場合を除き、手紙や電話は、本人の希望に合わせて支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様やスタッフが作成した作品や、写真、季節の花を飾るなどで、季節感を採り入れながら工夫をしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きな音楽やテレビを鑑賞したり、新聞を見たり出来る様な環境づくりをしている。スタッフルーム前には椅子置き、いつでも気軽に会話できる様にしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内の家具等は、使い慣れた物を持ってきていただける様にしている。危険を伴う物は、ご家族様と相談のうえで決めている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の出来ること、出来ないことを見極め安全に生活できる様支援している。また、手すりの設置や居室やトイレ等に目印をつけるなどで、自立した生活が送れる様に工夫している。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 23年 9月 3日

市町村受理日：平成 23年 9月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自のケア理念の確立を期待したい。	基本理念を基に、ほほえみ独自のケア理念を作成する。	スタッフ各自より、意見・案が出揃っているのを、まとめながらケア理念を作りあげる。	3ヶ月
2	4	家族が運営推進会議に関心を持ってもらえるように、会議の議事録を家族宛に送付することを期待したい。	家族に運営推進会議に関心を持って参加してもらえるよう、働きかけをしていく。	運営推進会議の開催を全家族に周知し、議事録を送付しまずは関心を持ってもらえるよう取り組んでいく。	随時
3	35	地域と協力して避難訓練を行うために、運営推進会議を中心に引き続き協力を呼びかけていくことを期待したい。また、災害時の備品などの準備を期待したい。	地域の方も含め避難訓練が出来る様、運営推進会議の場を活用しながら取り組んでいく。	地域の方にも避難訓練に参加してもらえるよう、話し合いの場を設けたり、呼びかけをするなどの取り組みをしていく。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。